

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION

# 2009年度(2010年3月期) 通期(第4四半期)決算説明会

2010年4月30日

**セイコーエプソン株式会社**

©SEIKO EPSON CORPORATION 2010. All rights reserved.

## ■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

---

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

## ■ 本説明資料における表示方法

---

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 千円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

### 「その他の事業」セグメントに含まれる「胎内育成事業」の一部変更について

(2009年度から)

- 将来の事業化を目指していた、「その他の事業」セグメントに含まれる「胎内育成事業」の一部を、2009年3月に発表したデバイス事業の構造改革の方向性に沿って全社の基礎研究開発へと役割を変更
- それにともない、2009年度のセグメント損益の開示値を変更
- 2009年度実績の説明において、前年度を比較対象とする場合は、2008年度のセグメント損益もあわせて補正

### 「マネジメントアプローチ」にもとづく、開示セグメントの変更について

(2010年度から)

- 「マネジメントアプローチ」の考え方に基づき、2009年度まで各セグメントならびに各事業に売上高比率で配賦をしていた本社費用を2010年度からは「全社セグメント」に集約
- 「その他の事業」セグメントで計上していた、グループ向けサービスを目的とした子会社は機能を各事業に移管
- 2010年度予想の説明において、前年度を比較対象とする場合は、2009年度のセグメント損益もあわせて補正

2

## ■開示セグメント変更

- セグメントは2009年度、2010年度それぞれ変更。
- 2009年度の決算値ににつき、「その他の事業」セグメントに含まれる胎内育成事業の一部を変更。
- 2010年度からは会計基準の変更により、「マネジメントアプローチ」によるセグメント情報を開示。
- 従来、各セグメントならびに各事業に配賦していた、本社費用については配賦を行わず、「全社」セグメントに集約。
- また、「その他の事業」セグメントで計上していた、グループ向けサービスを目的とした子会社については、機能を各事業に移管するにともない、「その他の事業」セグメントにおける損益計上は無くなる。

1. 概要

2. 詳細

## 決算ハイライト(通期)



(億円)	2008年度		2009年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	前回予想	%	実績	%	前期	前回
							実績比	予想比
売上高	11,224	-	9,900	-	9,853	-	-1,371 -12.2%	-46 -0.5%
営業利益	△15	-0.1%	200	2.0%	182	1.8%	+198 -	-17 -8.9%
経常利益	53	0.5%	130	1.3%	138	1.4%	+85 +161.7%	+8 +6.7%
税引前利益	△895	-8.0%	0	0.0%	△7	-0.1%	+887 -	-7 -
当期純利益	△1,113	-9.9%	△210	-2.1%	△197	-2.0%	+915 -	+12 -
EPS	△566.92 円		△105.41 円		△99.34 円			
換算 レート	USD	100.53 円	93.00 円		92.85 円			
	EUR	143.48 円	133.00 円		131.15 円			

4

### ■決算ハイライト

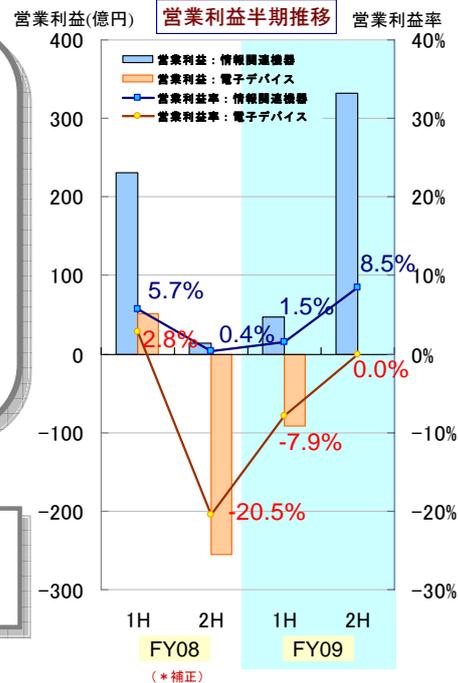
- 2009年度は、売上高が前期比 1,371億円減収の 9,853億円。  
営業利益は 198億円増益の 182億円、  
経常利益は 85億円増益の 138億円、  
当期純利益は 197億円の損失。
- 前期との比較では、大幅に損益を回復。

## 2009年度決算のポイント



- 上期においては、景気後退の影響を受けビジネス市場向けを中心に厳しい損益状況
- 下期には、景気の回復、ならびに各種の収益改善施策への取り組みにより大幅に損益を改善
- 徹底的な固定費削減への取り組み
- 2010年度以降の収益基盤の強化に向けてインクジェットプリンターの積極的な販売拡大施策などを展開

当初の目標である  
通期経常利益ブレークイーブンを達成



### ■ 2009年度決算のポイント

- 上期はリーマンショック以降の景気後退の影響を受け、特にビジネス向け市場を中心に厳しい損益状況。
- 下期は、景気の回復や、各種の収益改善施策への取り組みにより、特に第3四半期において、大幅な損益改善。
- また、全社をあげた徹底的な固定費削減への取り組みも、損益の大幅な改善に寄与。
- あわせて、2010年度以降の収益基盤強化の布石として、インクジェットプリンターの積極的な販売拡大などにも取り組む。
- 以上の結果、目標であった、期初予想の為替レート換算での経常利益ブレークイーブンを達成。

### 情報関連機器セグメント

景気後退の影響を受けたビジネス向け市場は回復の途上にあるものの、コストダウンなどによる事業の高効率化を継続して推進したことにより、前期比で損益改善

- インクジェットプリンター：競争力の高い製品の投入、成長市場であるエマージングや成長領域である商業・産業分野への取り組みを強化
- ビジネスシステム：POS関連製品、SIDMのプレゼンスの強化維持・強化
- プロジェクター：普及価格帯でのシェアNO.1、高輝度エリアへの取り組み

### 電子デバイスセグメント

下期からデジタル家電・携帯電話向けなどの需要回復があり、加えて前期での減損影響、固定費削減効果などにより、大幅に損失が縮小

- 水晶デバイス、半導体：エプソントヨコムの100%子会社化により一層のシナジーを發揮センシングデバイスなど強みを發揮できる分野への取り組みを強化
- 中・小型液晶ディスプレイ：中期経営計画の方向に則り、構造改革を推進  
 予定どおりアモルファスシリコンTFT液晶ディスプレイ事業に関する事業資産の一部をソニーへ譲渡

6

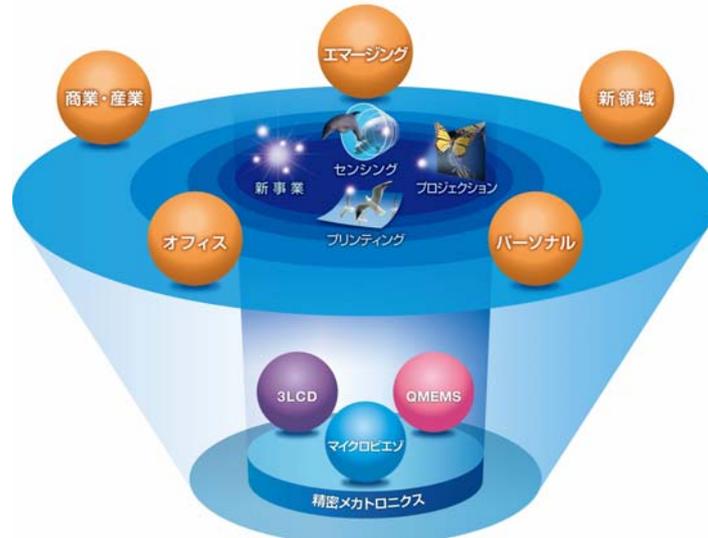
## ■ 2009年度決算のポイント

- 情報関連機器では、ビジネス向け市場は総じて回復の途上にあるが、コストダウンなどへ徹底して取り組み、事業の効率化・筋肉質化を継続して推進し、損益を改善。
- 各事業分野においても、競争力の強化をはかりつつ、新たな成長分野への取り組みも着実に実行。
- 電子デバイスでは、上期は景気後退の影響を強く受けたが、下期からはデジタル家電や携帯電話などの市場において需要回復があったことに加え、前年度に実施した減損の影響や、固定費の削減効果などにより、前期比で大幅に損失が縮小。
- 今後主力となる水晶・センサー事業は、エプソントヨコムの100%子会社化により、一層のシナジーを發揮できる体制を構築。
- 中・小型液晶ディスプレイ事業は、昨年6月30日に締結した契約にのっとり、予定どおり4月1日付けで、アモルファスシリコンTFT液晶ディスプレイ事業に関する事業資産の一部を、ソニーモバイルディスプレイへ譲渡した。

## 長期ビジョン「SE15」



エプソンは、省・小・精の技術を究め極めて、プラットフォーム化し、強い事業の集合体となり、世界中のあらゆるお客様に感動していただける製品・サービスを創り、作り、お届けする



7

### ■長期ビジョン「SE15」のビジョン・ステートメント

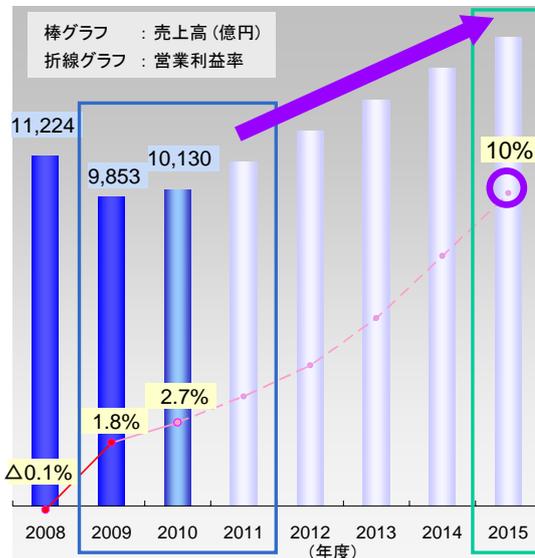
- エプソンは、マイクロピエゾ技術や高温ポリシリコンTFT技術、QMEMS技術などの、独自の強い技術をベースに、プリンティング、プロジェクション、センシングの重点3事業領域において、お客様に提供する価値の最大化をめざす。
- さらに、これらの強い技術によって、商業・産業分野やエマーシング地域など、これまで価値を提供できていなかったお客様にも価値をお届けすることで、会社全体の成長をめざす。

## 長期ビジョン「SE15」・中期経営計画(2009～2011年度)



「SE15」業績目標  
(2015年度)

ROS 10%、ROE 継続的に10%以上  
(売上高成長を前提として)



「SE15」・中期経営計画  
(2009～2011年度)

2009年度  
(経常利益)ブレークイーブンを目指し、長期ビジョンの布石となる事業基盤を再構築

2010年度  
確実に利益が確保できる企業体質の定着

2011年度  
長期ビジョン「SE15」実現に向けた新たな成長軌道を確立

8

### ■長期ビジョン「SE15」・中期経営計画

- SE15では、2015年度における業績目標として、売上高成長を前提として ROS : 売上高営業利益率を10%以上、ROEを継続的に10%以上を、定量目標として掲げている。
- 2009年度は、SE15の達成に向けた最初の3ヵ年計画となる中期経営計画の初年度として、経常利益のブレークイーブンと、長期ビジョンの布石となる事業基盤の再構築を目標に掲げ、この方向性に基づいて様々な施策を展開。
- 2010年度は、この中期経営計画の2年次であり、2015年度の目標達成に向け、確実に利益が確保できる企業体質の定着を目標とし、2009年度に成し遂げた固定費改善の効果を維持しつつ、将来の成長に向けた布石を着実に打つ年と位置づけている。

## 2010年度業績予想 ▶ 前期同期比



(億円)	2009年度		2010年度		増減	
	通算	%	通算	%	増減額	増減率
売上高	9,853	-	10,130	-	+276	+2.8%
営業利益	182	1.8%	270	2.7%	+87	+48.1%
経常利益	138	1.4%	240	2.4%	+101	+73.0%
税引前利益	△7	-0.1%	120	1.2%	+127	-
当期純利益	△197	-2.0%	0	-	+197	-
EPS	△99.34円		0.00円			
換算 レート	USD	92.85円	85.00円			
	EUR	131.15円	125.00円			

9

### ■ 2010年度業績予想

- 売上高は 1兆 130億円、営業利益は 270億円と、前期比で 増収・増益を予想。
- 当期純利益は、構造改革の総仕上げの年として、必要な特別損失などを見込んで  
いるが、最終的にはブレークイーブン以上をめざす。

### インクジェットプリンター事業

- ◆ ビジネス、エマージング、コンシューマーなどの、お客様セグメントに最適な商品を提供するためのラインナップの拡充

### プロジェクター事業

- ◆ No.1ポジションならではの、豊富なラインナップの提供

### 水晶・センサー事業

- ◆ 能力増強によるNo.1競争力の拡大と、半導体事業との一層のシナジー発揮

10

#### ■2010年度の取り組み

- インクジェットプリンター事業では、ビジネス、エマージング、コンシューマーなど、それぞれのお客様ごとに 最適な商品を提供していく方針に基づき、商品のラインナップを大幅に拡充。
- エマージング市場専用に関開発した商品や、SOHO のお客様向けに、より使い勝手を良くした商品などはその一例。
- これにより、本体の販売数量を 2009年度比で10%以上増加をめざし、将来の事業成長に向けた 着実な仕込みを行う。
- プロジェクター事業では、社内にコア技術を有する強みを活かし、No.1 ポジションならではの豊富な商品ラインナップの提供により、シェアの拡大をはかる。
- 水晶・センサー事業では、2009年度に実施を見送った 生産拡大のための設備投資を再開し、No.1メーカーとして勝ち抜きをはかる。
- あわせて、モジュールビジネスなどで、半導体事業との一層の連携による シナジーの発揮をめざす。

中期経営計画(2009～2011年度)の2年次として、  
「確実に利益が確保できる企業体質の定着」をめざす

- 当期純利益 ブレークイーブン以上をめざす
- 長期ビジョン「SE15」達成に向けた仕込みを着実に進める
- 事業構造改革の総仕上げ

【中期経営計画(2009～2011年度)】最終年次である2011年度に、  
【長期ビジョン「SE15」実現に向けた新たな成長軌道を確立】する

#### ■2010年度の位置づけ

- 中期経営計画の2年次として、確実に利益が確保できる企業体質の定着をめざす。
- 情報関連機器を牽引役に、2009年度比 全社で増収・増益を達成するとともに、当期純利益でのブレークイーブン以上の達成を目標とする。
- また、重点事業領域において着実に戦略を展開して、長期ビジョン SE15達成に向けた仕込みを進める。
- さらに、事業構造改革の総仕上げの年と位置づけて、中・小型液晶ディスプレイ事業の残された課題に取り組む。
  
- 以上の施策をセイコーエプソングループ一丸となってやり遂げることにより、中期経営計画の最終年次である2011年度の目標の「長期ビジョン SE15実現に向けた、新たな成長軌道を確立」に確実につなげる。

## 1. 概要

## 2. 詳細

1) 2009年度 決算

2) 2010年度 業績予想

## 決算ハイライト(通期)

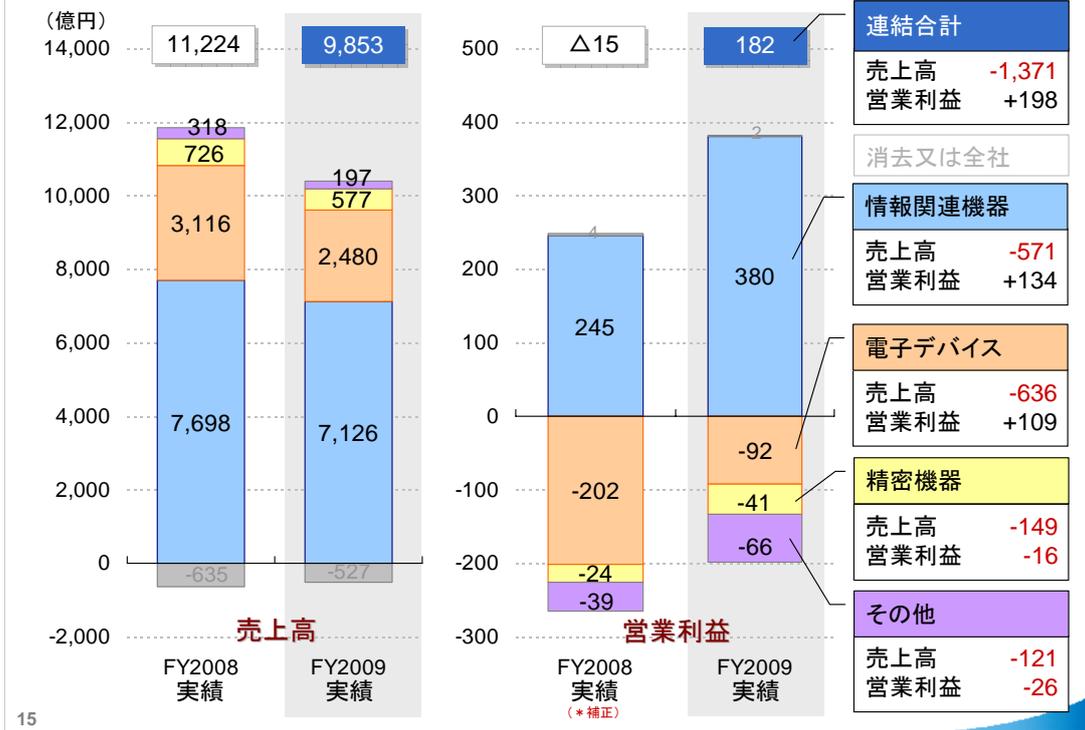


(億円)	2008年度		2009年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	前回予想	%	実績	%	前期	前回
							実績比	予想比
売上高	11,224	-	9,900	-	9,853	-	-1,371 -12.2%	-46 -0.5%
営業利益	△15	-0.1%	200	2.0%	182	1.8%	+198 -	-17 -8.9%
経常利益	53	0.5%	130	1.3%	138	1.4%	+85 +161.7%	+8 +6.7%
税引前利益	△895	-8.0%	0	0.0%	△7	-0.1%	+887 -	-7 -
当期純利益	△1,113	-9.9%	△210	-2.1%	△197	-2.0%	+915 -	+12 -
EPS	△566.92 円		△105.41 円		△99.34 円			
換 算 レ ー ト	USD	100.53 円	93.00 円		92.85 円			
	EUR	143.48 円	133.00 円		131.15 円			

14

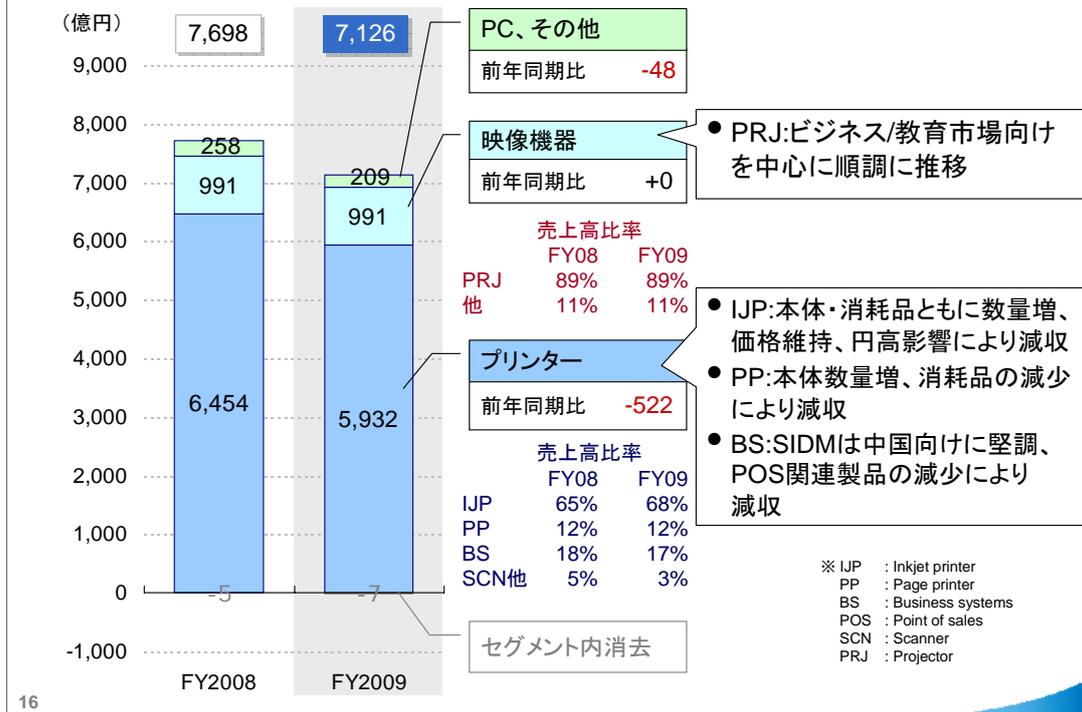
### ■2009年度決算ハイライト

## 2009年度業績▶事業セグメント別



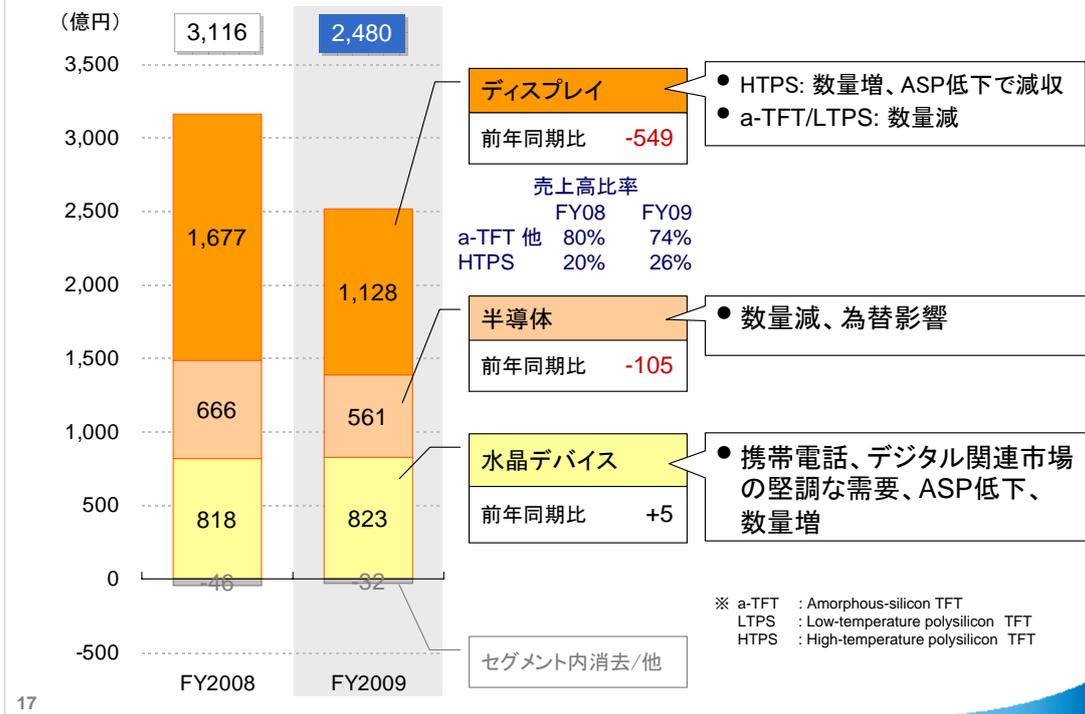
## ■事業セグメント別業績

## 売上高比較(通期) ▶ 情報関連機器セグメント



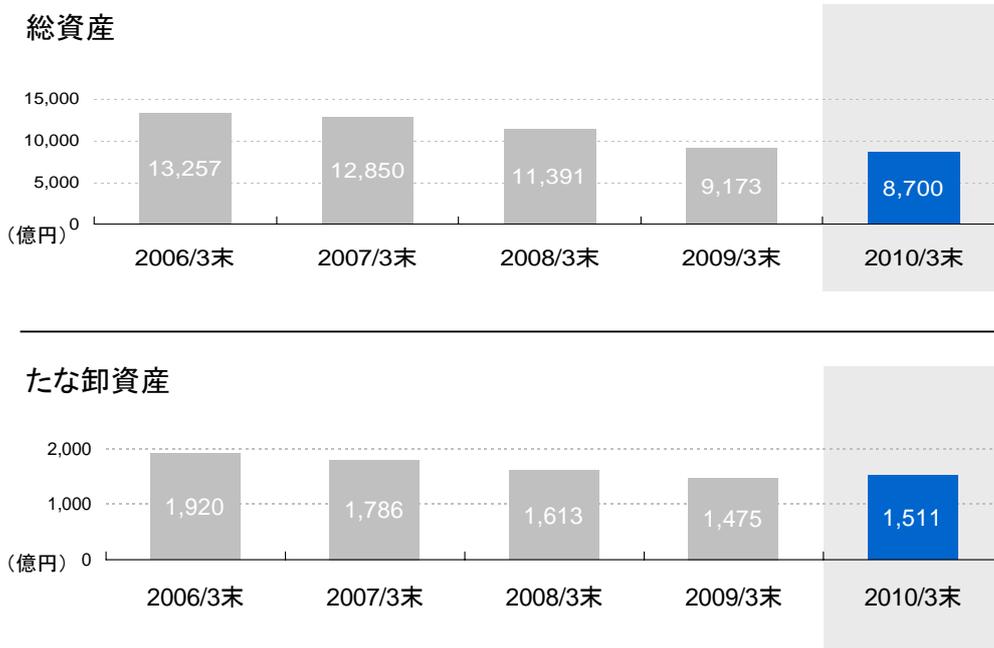
### ■ 情報関連機器セグメントの事業別売上高の比較

## 売上高比較(通期) ▶ 電子デバイスセグメント



### ■ 電子デバイスセグメントの事業別売上高の比較

## 貸借対照表主要項目推移



18

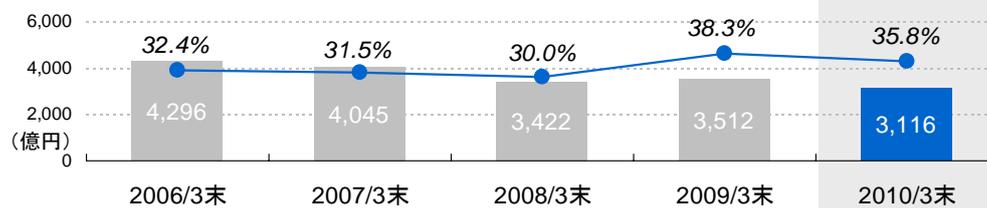
### ■ 貸借対照表の主要科目

- 総資産は、受取手形および売掛金が増加したが、手元流動性や有形固定資産の減少により、472億円減少。

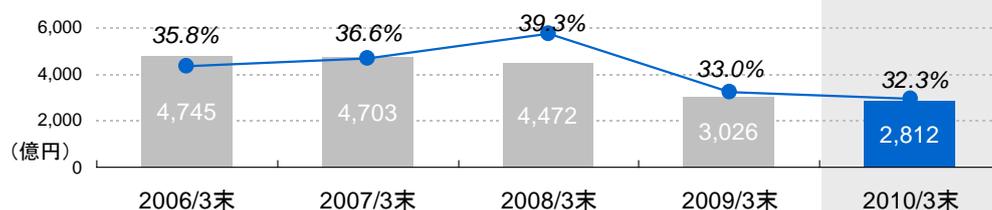
## 貸借対照表主要項目推移



### 有利子負債・有利子負債依存度



### 自己資本・自己資本比率



\*有利子負債=2008年度からリース負債を含む  
\*自己資本=純資産合計-少数株主持分

19

### ■ 貸借対照表主要項目

- 有利子負債は、前期末に比べて、395億円減少  
総資産の有利子負債依存度は 35.8%  
ネット有利子負債は、571億円。

- 自己資本は 213億円減少し、自己資本比率は 32.3%。

## 決算ハイライト（第4四半期決算）



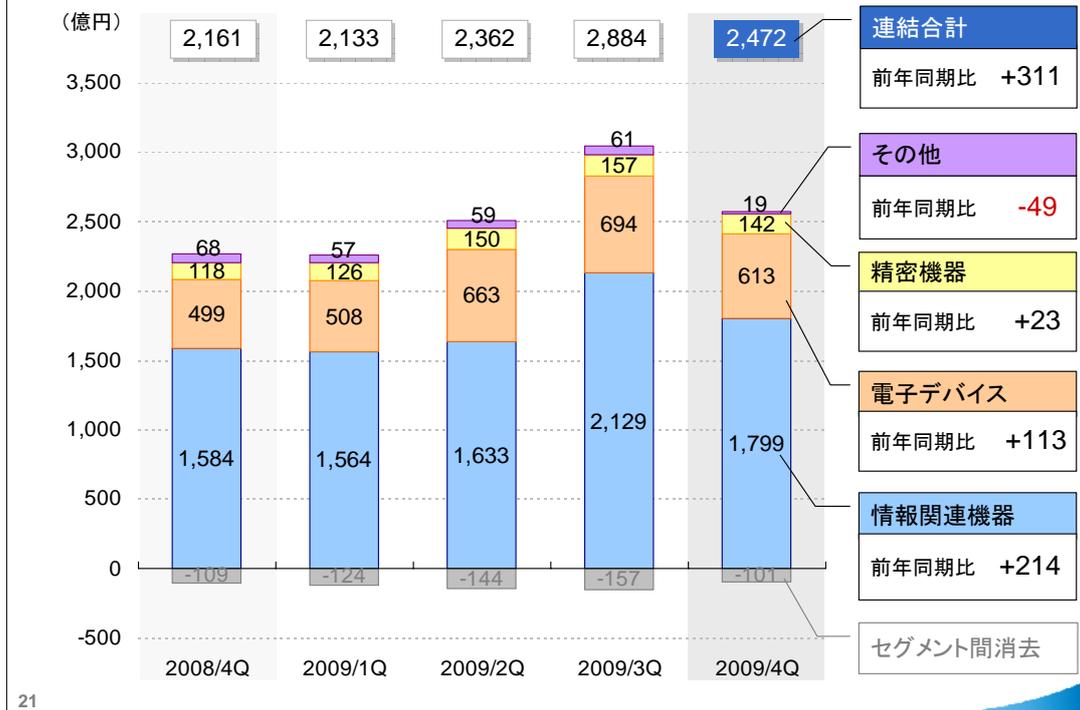
(億円)	2008年度		2009年度		増減	
	4Q実績	%	4Q実績	%	増減額	増減率
売上高	2,161	-	2,472	-	+311	+14.4%
営業利益	△342	-15.9%	△39	-1.6%	+303	-
経常利益	△322	-14.9%	△25	-1.0%	+296	-
税引前利益	△1,093	-50.6%	△82	-3.4%	+1,010	-
四半期純利益	△1,232	-57.0%	△150	-6.1%	+1,081	-
EPS	△627.47円		△75.33円			
換算 レート	USD	93.61円	90.70円			
	EUR	121.81円	125.62円			

20

### ■第4四半期実績

- 売上高は、前年同期比14.4%増収の2,472億円。
- 利益面では損失を計上したが、前年同期に比べ、大きく収益改善。

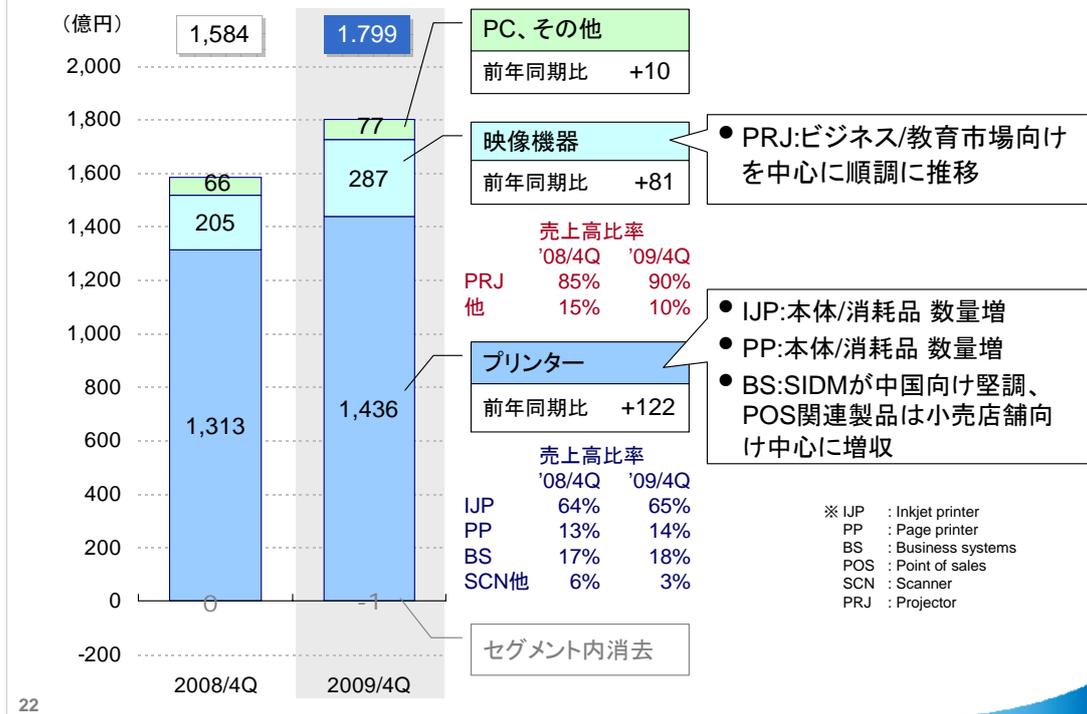
## 四半期売上高推移 ▶ 事業セグメント別



### ■事業セグメント別の四半期売上高推移

- 情報関連機器は、前年同期比 214億円の増収、電子デバイスは、前年同期比 113億円の増収、精密機器は、前年同期比 23億円の増収。

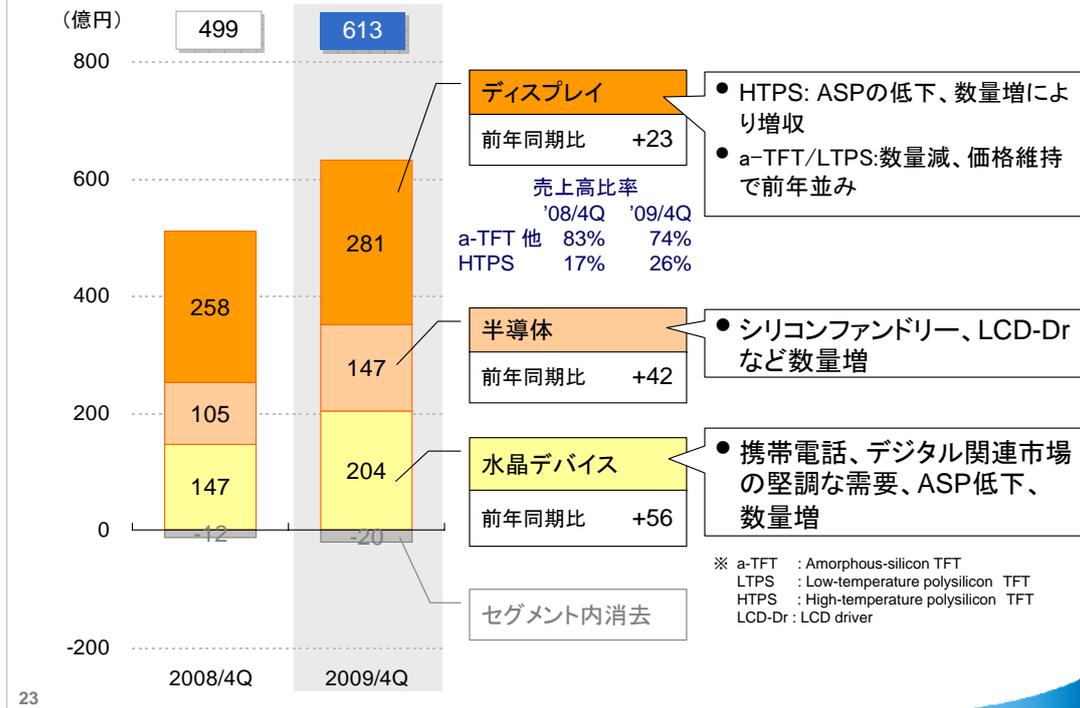
## 四半期売上高比較 ▶ 情報関連機器セグメント



### ■ 情報関連機器事業セグメントの第4四半期 売上高

- プリンター事業は、前年同期比 122億円の増収。
- インクジェットプリンターは、本体の価格維持・数量増、および、消耗品の数量増加により増収。
- 本体の地域別の状況は、欧州は回復の兆しが見えるものの前年を下回るも、アメリカ、アジア、日本の各地域において、数量を伸ばす。
- ページプリンターは、引き続き、入札案件などへの積極的な取り組みにより、本体のASPは低下したものの、日本、欧州、アジアの全地域で数量を伸ばす。また消耗品の数量増により増収。
- ビジネスシステムは、SIDMが中国向けを中心に堅調だったことに加え、POS関連製品が欧米の小売店舗向けに販売数量が増加したことにより増収。
- 映像機器は、第3四半期に引き続き、ビジネス向け、教育市場向けにプロジェクターの販売が堅調に推移したことにより、全ての地域において前年同期の数量を上まわり増収。

## 四半期売上高比較 ▶ 電子デバイスセグメント

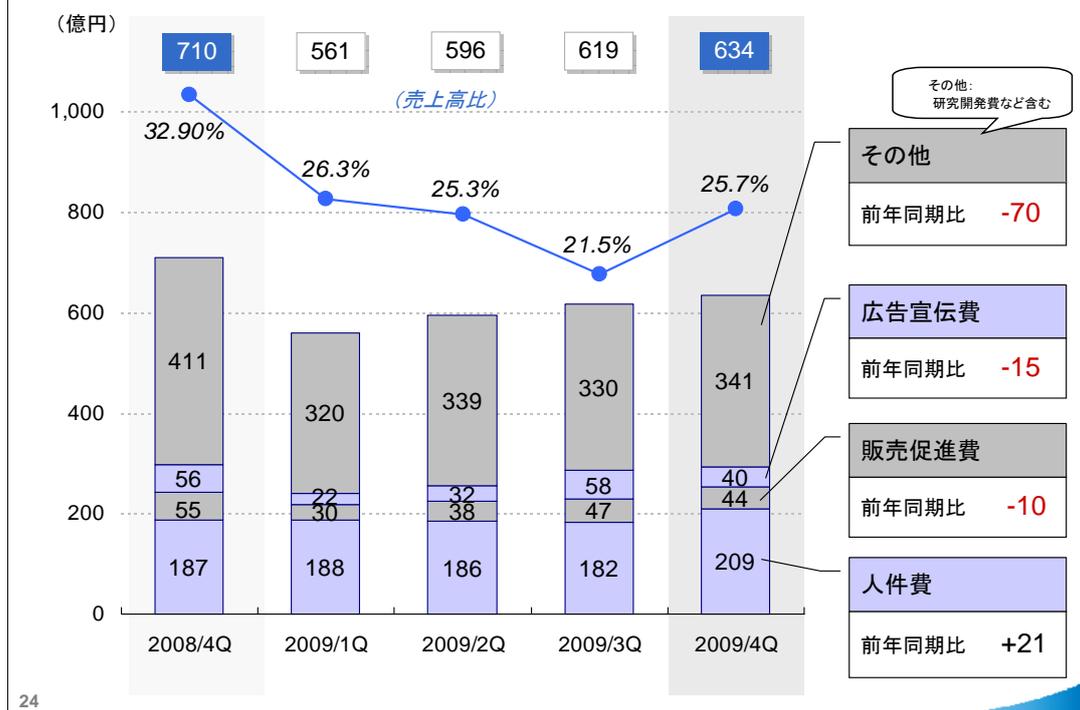


23

### ■ 電子デバイス事業セグメントの前年同期比較

- 景気の回復により、需要が堅調に推移したことにより、水晶デバイス事業、ならびに半導体事業は 前年同期に比べ増収。
- 水晶デバイスは、ASPの低下は あったものの、デジタル家電、携帯向けを中心とした数量の増加により 56億円の増収。  
半導体は、シリコンファブリーやドライバーの数量の増加により 42億円の増収。
- ディ스플레이事業は、前年同期比 23億円の増収。
- プロジェクター向けの HTPSは、ASPの低下はあったが、数量の増加により増収。
- 中・小型液晶ディスプレイは、携帯電話向け、デジタルカメラ向けを中心に数量が減少となったが、価格維持などの施策効果により、ほぼ前年並。

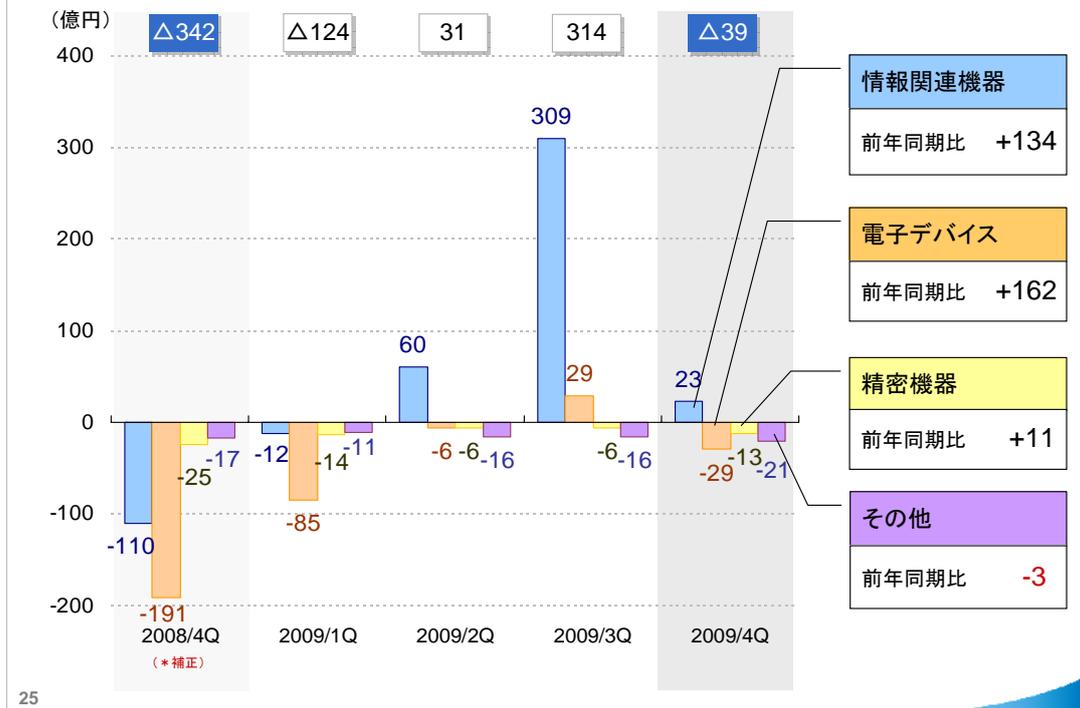
## 四半期販売費及び一般管理費推移



### ■販売費及び一般管理費の四半期推移

- 前年同期と比較して、研究開発費、販売促進費、広告宣伝費を中心に費用の削減を進めたことにより75億円の減少。

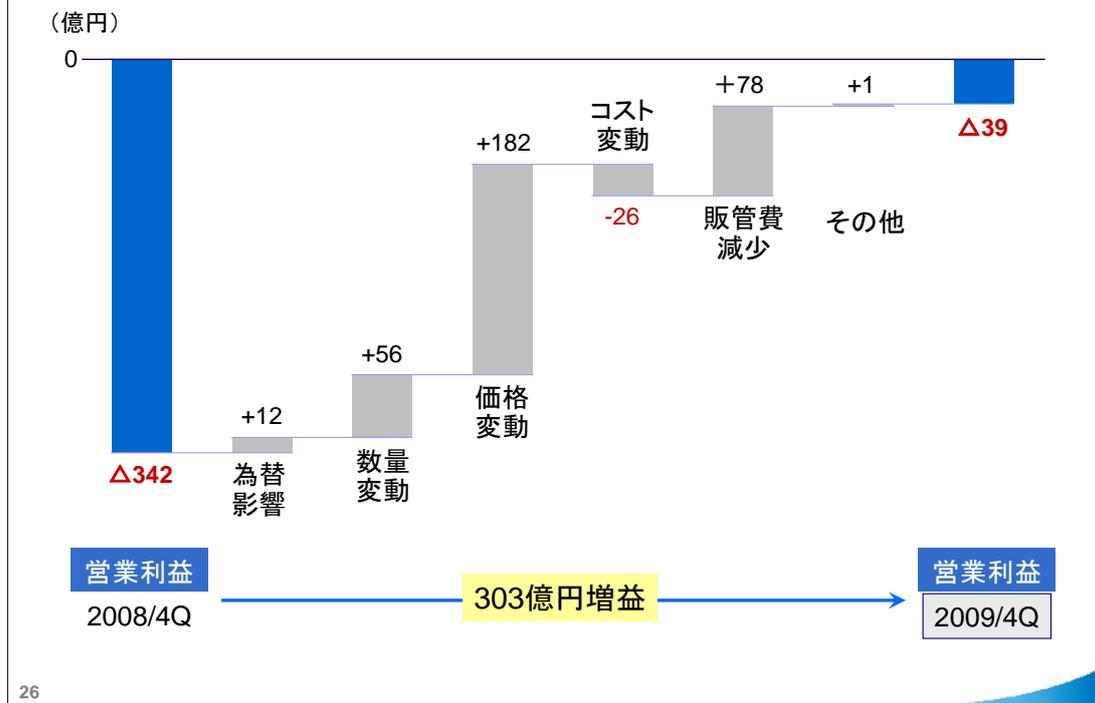
## 四半期営業利益推移 ▶ 事業セグメント別



### ■ 事業セグメント別の営業利益推移

- 情報関連機器は、前年同期比 134億円増益の 23億円の営業利益。
- インクジェットプリンターや、ビジネスシステム、プロジェクターが増収となったことに加え、事業全般における費用の効率化により増益。
- 電子デバイスは、前年同期比 162億円改善の29億円の損失。
- 半導体、水晶デバイス事業において、数量の増加による高い稼働率が維持されていること、また、前年度に 事業構造改革費用ならびに減損損失を計上したことによる減価償却費の減少などに加え、事業の効率化による効果により、前年に比べ大きく収益改善。

## 営業利益増減要因分析



### ■ 営業利益増減要因

- 2008年度 第4四半期の営業損失342億円に対し、コスト変動の減益要因があったが、価格変動、販管費減少、数量変動などによる増益要因により、当四半期営業利益は39億円の損失。

1) 2009年度 決算

2) 2010年度 業績予想

\*ご注意  
「マネジメントアプローチ」にもとづき、開示セグメントを変更しました。  
変更内容につきましては、スライド2をご確認ください。

## 2010年度業績予想 ▶ 前期同期比



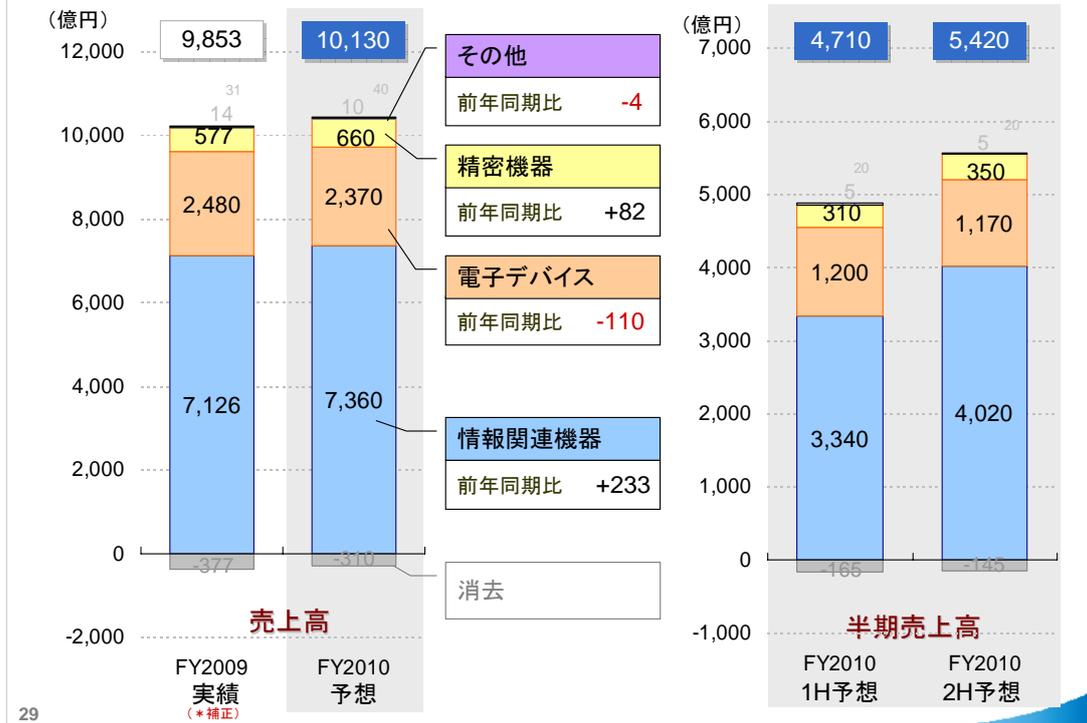
(億円)	2009年度		2010年度		増減	
	通算	%	通算	%	増減額	増減率
売上高	9,853	-	10,130	-	+276	+2.8%
営業利益	182	1.8%	270	2.7%	+87	+48.1%
経常利益	138	1.4%	240	2.4%	+101	+73.0%
税引前利益	△7	-0.1%	120	1.2%	+127	-
当期純利益	△197	-2.0%	0	-	+197	-
EPS	△99.34円		0.00円			
換算 レート	USD	92.85円	85.00円			
	EUR	131.15円	125.00円			

28

### ■ 2010年度業績予想

- 2009年度に比べ、緩やかではあるものの景気は総じて回復基調にある。  
売上高は、前年同期比 276億円増収の 1兆 130億円、  
営業利益は、87億円増益の 270億円、  
経常利益は、101億円増益の240億円を予想。
- 中・小型液晶ディスプレイ事業の構造改革の総仕上げとして、特別損失などを見込むことから、当期純利益は、ブレイクイーブンを予想。

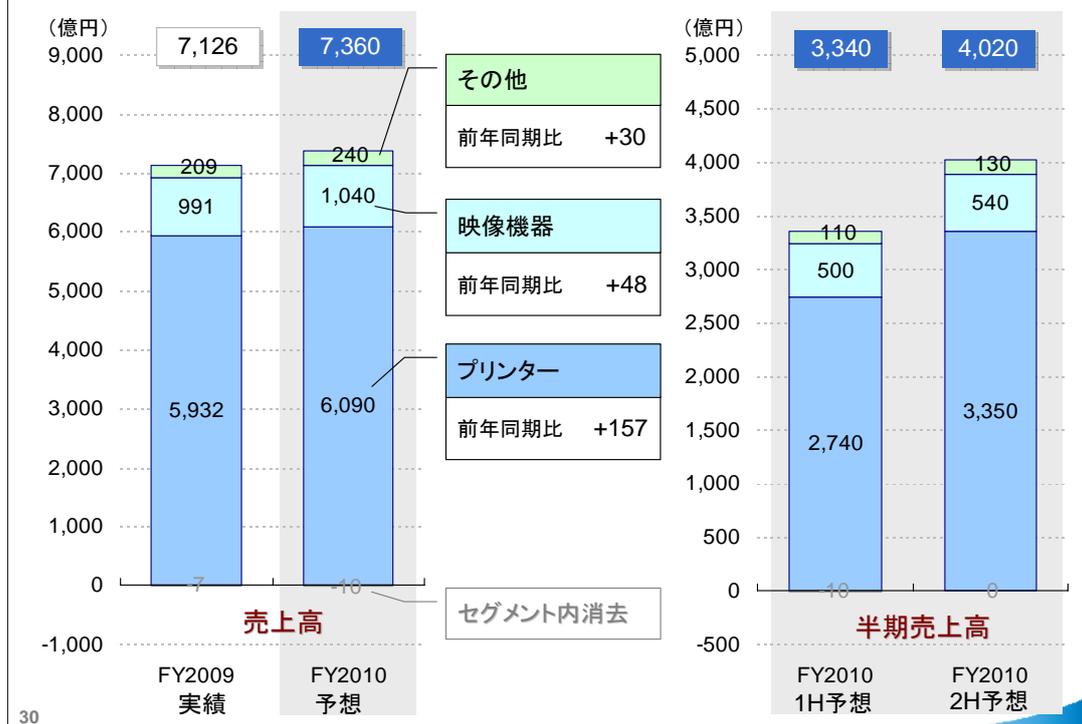
## 2010年度業績予想(売上高)▶事業セグメント別



### ■事業セグメント別の売上高予想と、上期・下期別の内訳

- 情報関連機器は、前期比 233億円の増収
- 電子デバイスは、前期比 110億円の減収

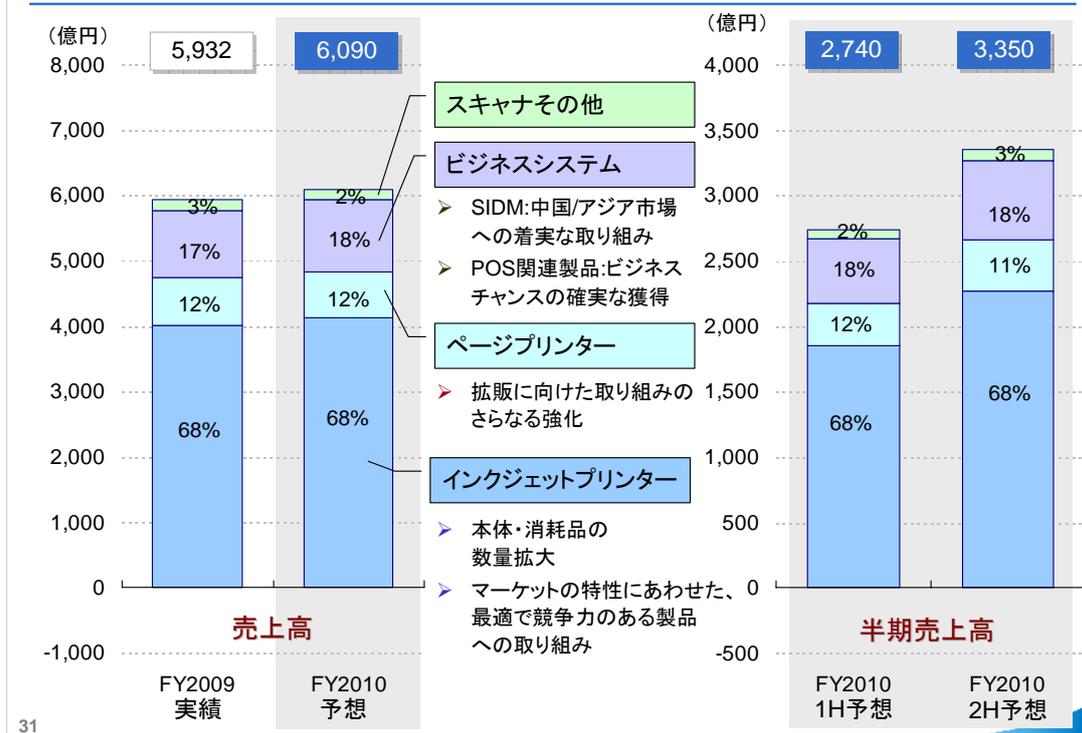
## 事業別売上高予想 ▶ 情報関連機器セグメント



### ■情報関連機器事業セグメントの事業部門別売上高の内訳

- プリンターは、前期比 157億増収の 6,090億円、映像機器は、前期比 48億円増収の 1,040億円。
- 映像機器事業は、景気回復にともない、プロジェクター市場は活況を取り戻しつつある。2009年度に発売した壁面に取り付けられる「超」短焦点の壁掛けプロジェクターなど、ビジネス、教育、ホーム向けにそれぞれのお客様のご要望にあった商品を提供していくことで、グローバルシェアNo.1を維持しながら成長をしていく。

## 事業別売上高予想 ▶ プリンター事業

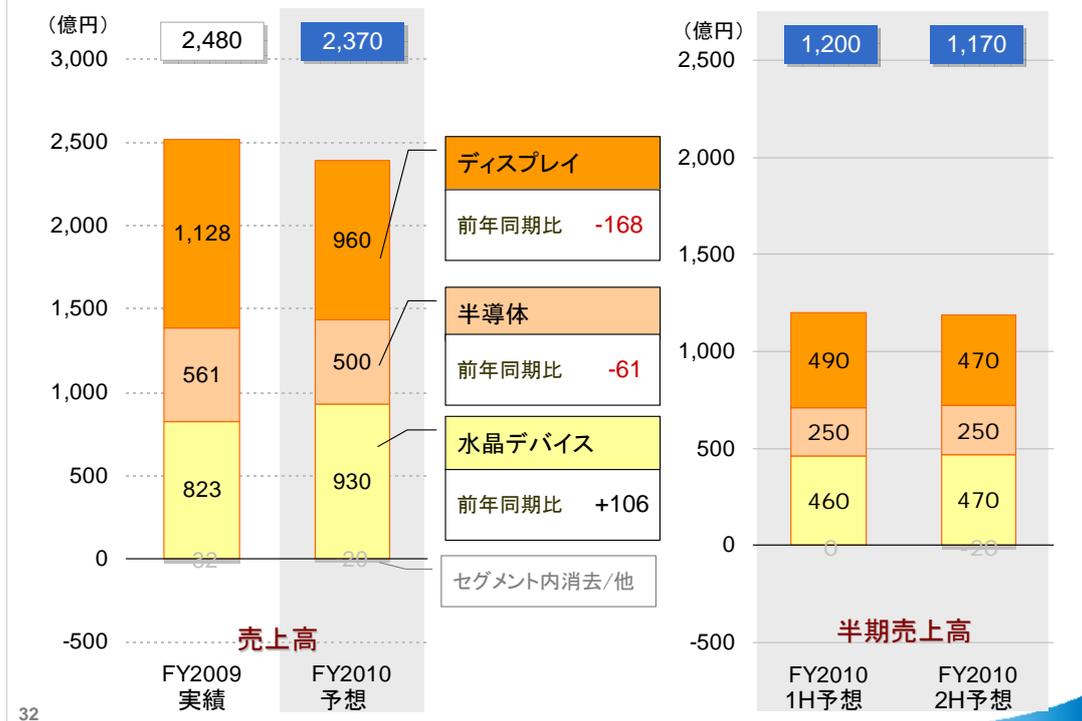


31

### ■ プリンター事業の製品別売上高の内訳

- ▶ インクジェットプリンターは、日米欧などの既存市場に加え、エマージング市場、ならびに商業・産業分野向けに、マーケットの特性にあわせた最適で競争力のある製品を投入していくことで、本体は2009年から10%以上の数量増加を計画。
- ▶ ページプリンターは、引き続き拡販への取り組みを強化し、競争力のある製品を展開。
- ▶ ビジネスシステムは、欧米先進国が本格的な市場回復には至っていない状況だが、中国やアジア市場向けの販売の増加が見込まれることや、POS関連製品におけるカラークーポンプリンターなどの新規ビジネスの拡大に取り組むことにより増収を予想。

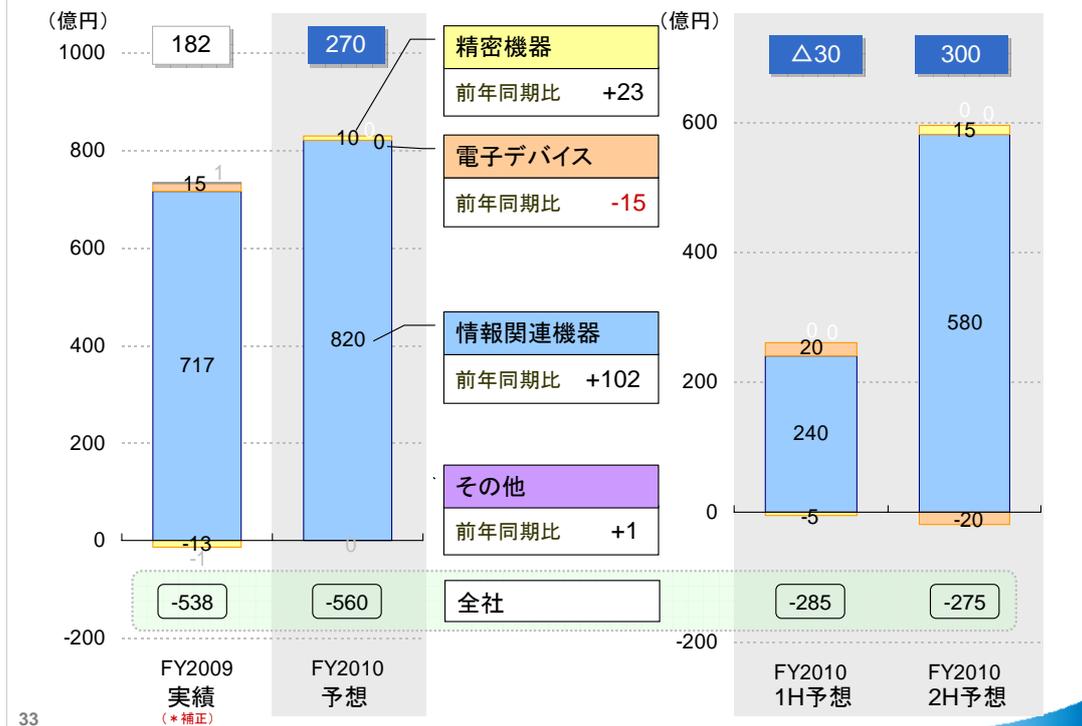
## 事業別売上高予想 ▶ 電子デバイスセグメント



### ■ 電子デバイス事業セグメントの事業部門別売上高の内訳

- 水晶デバイスは、携帯電話、デジタル機器向けを中心に徐々に需要が回復する見通し。前期比 106億円の増収を予想。
- 半導体は、61億円の減収を予想。中期経営計画の方針にのっとり、収益性の高い複合商品などを中心に強化していくと同時に、社内の完成品・水晶デバイス事業の強化のためにリソースを再配置。
- ディ스플레이は 168億円の減収を予想。
- HTPSは、市場が戻りつつあることから、社内向けを中心に数量の増加は見込まれるものの、ASPの低下などにより減収を予想。

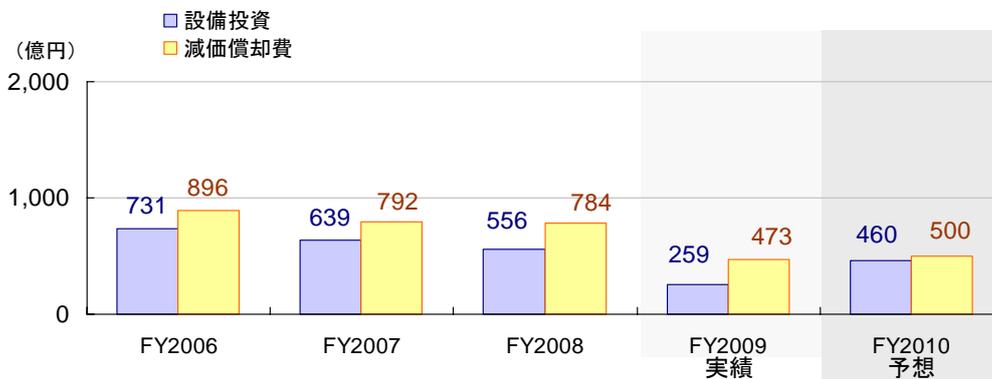
## 2010年度業績予想(営業利益)▶事業セグメント別



### ■営業利益の事業セグメント別予想と、上期・下期別の内訳

- 情報関連機器は、前期比 102億円の増益を予想。
- インクジェットプリンターは、為替影響もあり、本体ASP低下を見込むが、プラットフォームや部品の共通化によるコストダウンと同時に、費用の効率的な執行による採算改善へ取り組み、さらなる事業の高効率化を進める。  
また、ラージフォーマットプリンターなどのビジネス市場の需要が徐々に戻ってきていることもあり、前期に比べ 増益を予想。
- ビジネスシステムは増収・増益
- ページプリンター、プロジェクターは、ほぼ前年並みの損益を予想。
- 電子デバイスは、2010年度はブレークイーブンを予想。
- 水晶デバイスは増収による増益、  
半導体ならびにHTPSは減収による減益の見込み。

## 設備投資・減価償却費予想



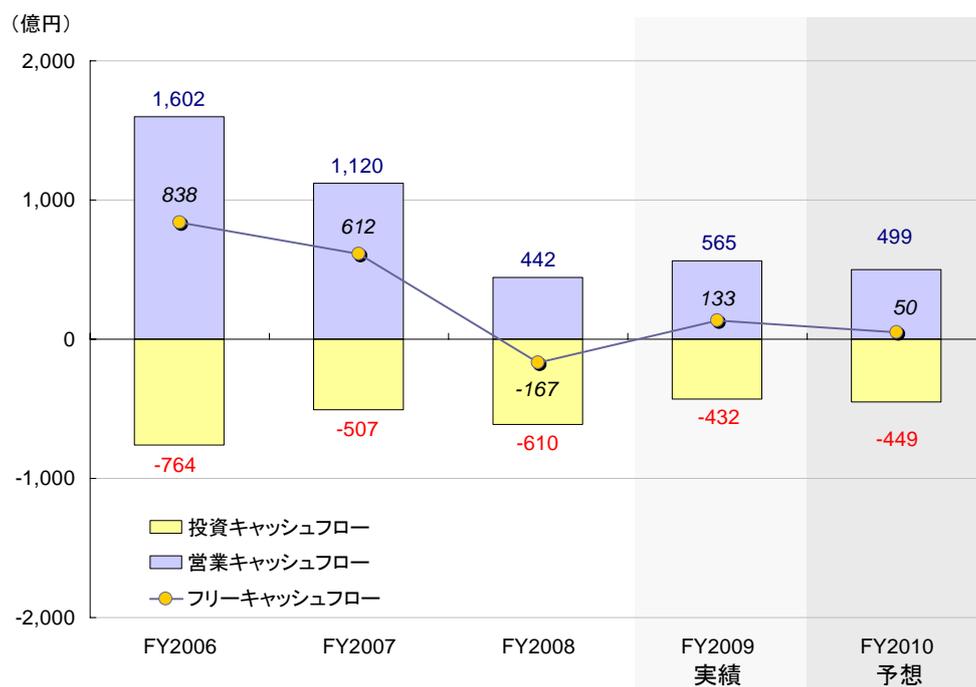
<セグメント別内訳>	FY2009実績		FY2010予想	
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
情報関連機器	125	244	210	260
電子デバイス	98	104	180	120
精密機器	18	39	30	40
全社・その他	16	85	40	80

34

### ■設備投資と減価償却費

- 2009年度は、設備投資の精査・厳選を進め、前年度に比べ大きく削減。
- 2010年度は、引き続き、案件を精査・厳選した上で、エプソンの成長・強化領域を中心に、460億円の設備投資を計画。
- 減価償却費については、設備投資が増加することにもない500億円を予想。

## フリーキャッシュフロー予想

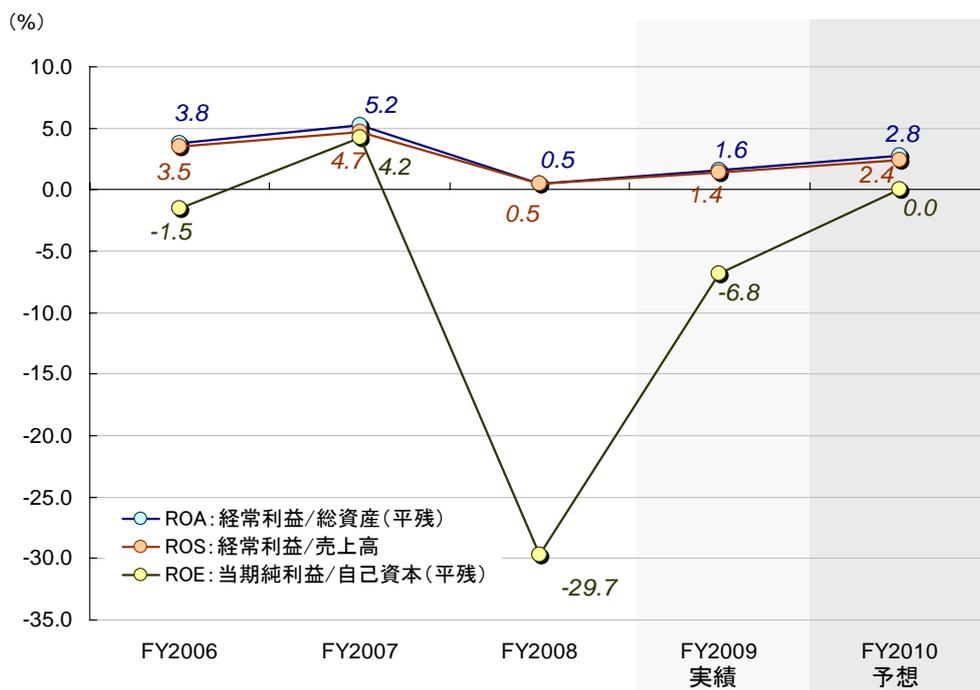


35

### ■キャッシュフロー

- 2009年度は、フリーキャッシュフローは133億円。
- 2010年度は、50億円を見込む。

## 主な経営指標の推移



36

### ■主な経営指標

- ROSは、2.4 %、
- ROAは 2.8 %
- ROEは 0 %

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION